【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	鹿児島県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	鹿児島県川内市立可愛小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	４	３	３	４	４	３	２	２３	３１
児童数	１２９	１１３	１１７	１２３	１２８	１２０	１０	７４０	

Ⅱ　研究の概要

１　研究主題（テーマ）

自ら学び，自ら考える力を身につける，楽しい算数学習の創造
－　確かな学力の定着をめざす指導方法・指導体制づくり　－

２　内容と方法

(1)　実施学年・教科

全学年・算数

＜選択した理由＞

本校の場合，算数科は子供の学習状況に差が出やすい教科であり，教師の指導力に格差が見られ，相互に研修を深めたい要望が多かった。そこで，指導方法を改善し，よりきめ細かな指導を行うことで，子供一人一人の学力を伸ばすことができると考えた。また，この研究を推進することにより，他の教科・領域・その他の指導にも波及効果をもたらすし，また，近隣の小学校にも教育方法改善の方向を示すことに役立つのではないかと考えた。

＜具体的な方法＞

○　算数科における指導方法の改善の研究
○　算数科におけるＴＴ指導，少人数習熟度別指導，教科担任制等の指導体制の研究

〔各学年の重点研究内容〕

１年・２年・・・・・・指導方法を研究し，学習支援体制による基礎・基本の定着をめざす。
３年・４年・・・・・・ＴＴ指導等による効果的な指導方法を研究する。
５年・６年・・・・・・習熟度別少人数指導の効果的な指導方法を研究する。
全学年・・・・一部教科担任制・交換授業を取り入れた指導体制のあり方を研究する。

(2)　年次計画

３年間を５期に分けて，各期ごとに研究課題を設定し，重点的に研究する。
（それぞれの期で研究の中間反省を行い，次期の研究計画を立案，再修正する。）

第1期（平成14年 4月～平成14年　9月）・・＜研究課題1＞「指導過程の研究」
第2期（平成14年10月～平成15年　3月）・・＜研究課題2＞「問題解決学習の研究」
第3期（平成15年 4月～平成15年10月）・・＜研究課題3＞「習熟度別少人数･TT指導における指導体制の研究」
第4期（平成15年11月～平成16年 3月）・・＜研究課題4＞「一部教科担任制および交換授業の研究」
第5期（平成16年 4月～平成17年　3月）・・＜研究課題5＞「他教科での指導体制の研究」

年　次　計　画　表　　※　アルファベットは＜補足＞参照

	１年・２年	３年・４年	５年・６年
第１期	指導過程の研究	指導過程の研究 ＴＴ指導体制の研究（Ａ）	指導過程の研究 少人数指導体制の研究（Ａ）
第２期	指導過程の研究 問題解決的な学習の研究	問題解決的な学習の研究 ＴＴ指導体制の研究（Ａ） （Ｂ）	問題解決的な学習の研究 少人数指導体制の研究（Ａ） （Ｂ） 一部教科担任制の研究
第３期	問題解決的な学習の研究 学習支援によるＴＴ指導体制の研究（Ｂ）	問題解決的な学習の研究 ＴＴ指導体制の研究（Ａ） （Ｂ）	問題解決的な学習の研究 習熟度別少人数指導体制の研究（Ａ）（Ｂ）

			一部教科担任制および交換授業の研究（A）
第４期	学習支援によるＴＴ指導体制の研究　（B） （C） 一部教科担任制および交換授業の研究 ＴＴの年間指導計画への位置付け	ＴＴ指導体制の研究（A） （B） （C） 一部教科担任制および交換授業の研究 ＴＴの年間指導計画への位置付け	習熟度別指導体制の研究 （C） 一部教科担任制および交換授業の研究（A） （B） ＴＴ・少人数の年間指導計画への位置付け
第５期	算数を中心に据えながら他教科へ広げて研究する。＜課題５＞ 全学年を通してＴＴ・習熟度別指導・一部教科担任制および交換授業の研究する。		

＜補　足＞

ＴＴ指導・・・・・・・　Ａ：Ｔ１とＴ２が協同で学習指導を行い，グループ別および個人指導に重点を置き，習熟度に応じた指導を行う。

Ｂ：学習支援時間の教員が学年の枠を超えて授業に加わる。

（例）

１年１組

１年１組の担任と，６年生担任で，そのとき学習支援時間である教員が加わり，１年１組の児童を指導する。

担任とそのとき学習支援時間である担当学年以外の教員が，ＴＴで，行う。

Ｃ：子供の興味や習熟の程度に応じてクラス内を二分し，Ｔ１とＴ２がそれぞれ授業を行う。

少人数（習熟度別）指導・・Ａ：複数のクラスの児童を習熟の程度に応じて分け，担任，少人数指導または学力向上担当の教員で各コースに分かれて指導する。

Ｂ：クラスを複数に解体し，習熟度の程度に応じた指導を，同じ学年部の専科，そのとき学習支援時間である同じ学年部の教員で行う。

（例）　（Ａの場合）

６年１組　６年２組

複数のクラスの児童を習熟の程度に応じて３ないし４グループに編成

（Ｂの場合）

補充コース１（少人数担当）　発展コース１（６年１組　担任）　発展コース２（６年２組担任）　補充コース２（学習支援時間の教員）

補充コース１・・・少人数指導担当。
発展コース１・・・６年１組担任
発展コース２・・・６年２組担任
補充コース２・・・同学年の専科，学習支援時間の教員

教科担任制・・・・・・Ａ：学力向上担当者等が，専科として複数学級の授業に加わる。

Ｂ：学年間あるいは他学年間で，教科を一部交換して指導する。
（学年および単元ごとの交換授業）

(3)　研究の組織

①　研究推進の組織

〔全体会〕・・・・・・・・・・・・・・・全職員
〔研修係会〕・・・・・・・・・・・・・教務部内における研修係
〔研究推進委員会〕・・・・・・・校長，教頭，研修係，学力向上対策員（３年 TT，４年 TT，少人数指導）
〔コア研究推進委員会〕・・・研修係，研修３部長，学力向上対策員
〔研修３部〕・・・・・・・・・・・・・各部内を活動内容に応じて班を分ける。
《理論部》・・・・・・研究誌班　評価規準班　教育課程班)
《授業実践部》・・・・ＴＴ班　少人数授業班　学習支援班
《調査・環境部》・・・: 調査分析班　設営班　教材作成班

②　活動分担

〔研修係会〕・・・・・・・・・・・・・研修の企画，運営
〔コア研究推進委員会〕・・・研修指針の原案作成，研修内容の調整
〔研究推進委員会〕・・・・・・・全体研修の内容検討，研修指針の決定
〔研修３部〕《理論部》・・・・授業を支える仮説や理論の研究
学力向上全般に関する指導計画，評価規準の研究
《授業部》・・・・授業実践の分析と反省及び指導方法の研究
領域，学年別の指導過程及び具体的な指導法の研究
《調査・環境部》・・・児童の学力や意識等の実態調査の実施と分析
授業に必要な資料の収集と保管
算数に関する事項の校舎内の設営

２　本年度の研修の目標

○　各学年の算数科指導計画の見直し，評価規準の作成を行う
○　習熟度別学習の基本的な考え方(柔軟な編制・授業展開)を確立する。
○　算数科の補充的・発展的な学習の在り方と学習支援，交換授業の在り方を研究する。
○　算数科学力の定着度を分析すると共に，学力向上対策の方向性の課題を集約する。
○　本校児童に必要な効果的な教材・教具のリストや教具を作成する。

Ⅲ　平成１５年度の成果及び課題

１　研究の成果

(１)　児童の実態

＜学力検査＞

・　学力検査の偏差値平均が全体で４９．５から５０．４に上がった。特に，　低学年は，４．４ポイントも向上している。
・　オーバーアチバーが全体の約２４％なった学級や，アンダーアチバーが前回の調査の半分になった学級も表れてきた。

＜算数に関する意識調査＞

・　「算数が好き」という子供は全体で８割に，「複数の教師で教えてもらえてうれしい」という子供は全体の７割と平成平成１４年度当初よりの調査のときより，２割ほど増えた。

(２)　指導体制による効果

＜学習支援＞

・　つまずきを早期発見できる指導体制をつくるができた。
・　児童一人一人に応じた適切な助言や学習方法への指導を行うことができた。

＜ＴＴ指導＞

・　個に応じた多様な指導方法，習熟の程度に応じた学習形態で進めることができた。

＜少人数（習熟度別）指導＞

・　習熟度別学習についての保護者の理解が深まった。
・　習熟度別のコース選択において，児童の選択判断，自己診断能力が高まった。
・　児童の学習意欲が向上し，発展学習に対する興味・関心が高まった。

(３)　指導方法の検討による効果

＜学習過程＞

・　見通しを持って学習にあたるなど，子供の意識が高まった。
・　教師の指導に系統性が生まれ，学年間，全体での課題研修が深まった。

＜算数コーナー＞

・　算数に親しむ姿が随所でみられるようになった。

(４)　その他の研究体制

＜ＰＴＡ＞

・　ＰＴＡとの協力体制がさらに密になった。

＜一部教科担任制や交換授業＞

・　教材研究が担任間でくり返し行われる等，学級間の連絡が深まり，児童の実態に応じた指導が計画的に実施された。また，同一の授業を別の学級で試行する中で，研究意欲が高

まり，その都度，指導方法改善が図られる等，指導方法改善に効果が見られた。

＜放課後学習チューター＞

・　担任と放課後学習チューターとの連絡態勢が深まり，個に応じた指導の成果が着実に見られるようになってきた。

（５）　職員の意識の変容

・　学年間の融和が深まると共に，教師間の意思疎通が深まった。

・　全職員で全校児童の指導に当たっていく意識が向上した。

２　今後の課題

・　指導計画の段階，授業中や授業後の評価，及び学期末・学年末の総括的評価に評価規準をどのように活用のしていくか，具体的に実践を重ねて研究していくことが必要である。

・　学習支援では，個に応じた学習支援の在り方について，Ｔ１，Ｔ２の関わり方をさらに見直していくことが必要である。

・　ＴＴ指導，少人数指導では，きめ細かな指導を展開するため，教材の内容や児童の実態に応じたさまざまな学習形態での授業づくりをさらに実践することが必要である。

・　発展的・補充的な学習の指導では，個に応じた指導がさらに進めるために，教材開発や，指導の在り方の研究を深めていくことが必要である。

・　交換授業では，学年の時間割，学級の時間割の管理を綿密に行い，今後も積極的に推進していき，教材研究や子供 一人一人への理解をさらに深めていくこと必要がある。

・　「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習の確実な定着をさらに図り，保護者との理解と協力をさらに求めていきたい。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

１　学力検査

・　年度当初に算数科のＮＲＴを実施し，確実な実態把握を行い，学年・学級の経営の計画に生かす。

・　年度末にＣＲＴを実施し，習熟が足りない領域等については，再指導を行う。

２　漢字力・計算力テスト

(1) ねらい

各学年で既習した漢字や計算の力が確実に定着しているかどうかを評価し，分析を行うことによって，子供一人一人の漢字力や計算力を確実に身に付けさせるための指導に生かす。

(2) 実施内容

学期ごとに，既習した事項に中から，基礎・基本となる漢字や計算を２０問出題し，評価を生かして指導にあたる。

(3) 時　期：各学期末に１週間を設定し行う。

３　百ます計算

(1) ねらい

正答率やタイムの向上を目指すことで，できた喜びを味わうことができるように，算数に親しみをもつことができるようにする。

(2) 実施内容

学年の学習状況に応じて四則計算を行う。

(3) 時　期： 毎週月曜日，金曜日の８時１５分～２５分

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○　学力向上フロンティア事業中間発表会研究公開

（平成１５年１１月２８日　川内市立可愛小学校　）

研究授業（１年，３年，６年で実施）　　研究発表，分科会での研究協議，全体会

川内市，川薩地区，県内外から２００余名の参加

○　研究成果普及のための研究誌，ＨＰ作成

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　■１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級　□１３～１８学級　■１９～２４学級　□２５学級以上

【指導体制】　■少人数指導　■Ｔ．Ｔによる指導　■一部教科担任制　□その他

【研究教科】　□国語　□社会　■算数　□理科　□生活　□音楽　□図画工作　□家庭　□体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無